

管内及び全国鉱山の災害・鉱害等 発生状況について

令和7年3月11日

関東東北産業保安監督部

管内及び全国鉱山の災害発生状況

災害発生状況

項目 鉱種別	年	関東管内					全国					災害回数比率 (管内／全国)
		災害回数	死	重	軽	計	災害回数	死	重	軽	計	
金属・非金属	R2	0	0	0	0	0	4	0	1	1	2	0%
	R3	2	0	1	0	1	11	0	5	2	7	18%
	R4	0	0	0	0	0	6	0	3	1	4	0%
	R5	1	0	1	0	1	9	1	5	1	7	11%
	R6	3	0	1	0	1	9	0	5	1	6	33%
石灰石	R2	4	0	2	0	2	25	1	13	2	16	16%
	R3	3	0	3	0	3	18	0	11	0	11	17%
	R4	4	0	2	0	2	14	1	4	3	8	29%
	R5	5	0	4	1	5	20	1	13	3	17	25%
	R6	3	0	0	1	1	16	0	5	2	7	19%
石油・天然ガス	R2	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	100%
	R3	2	0	2	0	2	2	0	2	0	2	100%
	R4	2	0	1	0	1	2	0	1	0	1	100%
	R5	3	0	0	1	1	4	0	0	1	1	75%
	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
石炭	R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R3	0	0	0	0	0	2	0	1	1	2	0%
	R4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0%
	R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R6	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0%
亜炭	R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
	R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合計	R2	5	0	2	1	3	30	1	14	4	19	17%
	R3	7	0	6	0	6	33	0	19	3	22	21%
	R4	6	0	3	0	3	23	1	8	5	14	26%
	R5	9	0	5	2	7	33	2	18	5	25	27%
	R6	6	0	1	1	2	26	0	10	4	14	23%

※災害件数、罹災者数：令和2年～令和5年は鉱山保安統計年報の値。令和6年は鉱山保安統計月報（令和6年12月号）の値。自然災害件数は除く。非鉱山労働者は罹災者数から除く。

管内及び全国鉱山等の鉱害等発生状況

鉱害等発生状況

(1) 関東管内事由別発生状況

() 内休廃止鉱山: 内数

事由／年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
坑廃水			1(0)		
集積場・廃棄物					
油の排出					
鉱煙			1(0)		
風水雪害・震災				1(0)	
その他					
計	0(0)	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)

(2) 関東管内鉱種別発生状況

() 内休廃止鉱山: 内数

鉱種／年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
金属					
非金属					
石灰石					
石油・天然ガス			2(0)	1(0)	
製錬場					
計	0(0)	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生状況(鉱山保安法第41条等による報告)

2024年12月31日現在

No	災害発生月日	都道府県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	担当職務 経験年数		危害 or 鉱害	災害の種類	概況
				死	重		軽			年	月			
					>4w	4w> 2w								
1	2/8	栃木	けい石	－	1	－	－	直轄	36	0	1	危害	坑外:取扱中の 器材鉱物等のた め	罹災者は、上司からフィルタープレス機のろ過板洗 浄作業の指導を受けていた。15時30分頃、他のプ レス機のブザー音が鳴動したため指導者が現場を 離れた間に、罹災者はろ過板Aの表側の洗浄が終 わったため反転させて裏側を洗浄するため、指導 者不在のまま天井クレーンを操作してろ過板を床か ら引き起こし、立てかけてあった他のろ過板2枚 (B,C)の横に並ぶ形で立てかけ、再び床に倒そうと した。そのとき、ろ過板Aのハンガー一部がチェーンで 固定されていなかったろ過板Bのハンガー一部の後ろ 側に入り込み、ろ過板Bが同時に前方に押されて罹 災者の方に倒れ右足首が下敷きになり罹災した。
2	3/11	埼玉	けい石	－	－	－	－	－	－	－	－	危害	坑外:発破又は 火薬類のため	16時10分頃から露天掘採場において発破を開始。 360mLベンチ(ベンチ高さ5m)において発破を行っ たところ、飛石が発生し、約90～100m離れた 350mLベンチに退避していたパワーショベル2台の キャビンのガラスが割れた。なお、発破時には飛石 発生時には、全ての重機のオペレーターは退避し ており、操作員は乗車しておらず罹災者はいない。
3	7/24	埼玉	石灰石	－	－	－	－	－	－	－	－	危害	坑外:発破又は 火薬類のため	11時20分頃、発破作業監督者2名は、発破箇所(2 箇所)において、それぞれの箇所にて電気雷管の 導爆線への装着作業を開始し11時30分頃に完了し 発破母線に結線した。11時35分頃、点火所に向け て自動車2台で移動を開始、そのとき、雷、暴風雨 が発生。11時39分頃、露天採掘場に落雷が発生 し、2箇所の電気雷管が起爆した。当該起爆の際、 発破作業監督者2名は、発破警戒立入禁止区域の 範囲外までは到達できていなかった。なお、人的被 害、物的被害はなかった。
4	8/19	東京	けい 石、石 灰石	－	－	－	－	－	－	－	－	危害	坑外:火災	8時頃、パワーショベルのオペレーターは、露天採 掘場において自走式破砕機への岩石の投入を開 始していたところ、9時20分頃、自走式破砕機から 炎と黒煙が上がっているのを発見し、作業を中断し て確認したところ、自走式破砕機に搭載されている リチウムイオンバッテリー付近から炎と黒煙が上 がっているのを確認した。その後、駆けつけた作業 員数名と消防隊により消火活動を行い、15時20分 頃、消防隊により鎮火を確認した。

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生状況(鉱山保安法第41条等による報告)

2024年12月31日現在

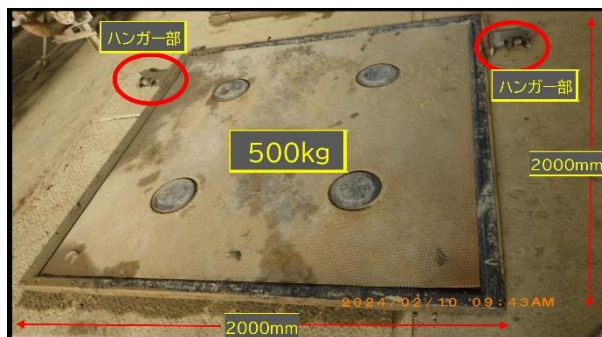
No	災害発生 月日	都道府 県名	鉱種	り災者数				直轄 or 請負	年齢	担当職務 経験年数		危害 or 鉱害	災害の種類	概況
				死	重		軽							
					>4w	4w> 2w								
5	9/2	栃木	石灰石	-	-	-	-	-	-	-	-	危害	坑外:発破又は 火薬類のため	朝礼にて作業員Bが火薬類作業監督者Aに対し発破箇所から北東側の山陰にバックホウを退避させてもよいかの確認があり、Aは了承。11時30分頃、装薬と退避が完了し、Bは発破箇所から北東側へ重機を退避させ、11時50分頃、点火を行った。13時10分頃、Bは作業再開のため北東側へ退避させていた重機の場所へ移動したところ、バックホウのキャビン右側ガラスが破損していることを確認。発破箇所から噴き上げた石が飛散してガラスに接触、破損したものと推定される。
6	11/28	栃木	石灰石	-	-	-	1	請負	65	12	7	危害	坑外:機械のため	罹災者は、一人で選鉱倉庫(工作作業場)においてコンベアフレームを交換するため、フレーム材である溝形鋼の製作作業を行っていた。罹災者は、ボール盤により穴開け作業を行っていたところ、穴開け位置を確認するため、右手で操作レバーを上げ、切削面の切削油を拭き取ろうとして回転中のドリル付近に左手を近づけた際、左手に着用していたゴム製保護手袋の薬指付近が左手薬指ごとドリルに巻き込まれ、罹災した。当該ゴム製保護手袋は、左手薬指第一関節あたりにビニールテープが巻かれ補修していたが、ビニールテープが1cmほど剥がれた状態のまま着用しており、その端が回転中のドリルに巻き込まれてしまった。

災害発生件数(関東管内)

危害 6 件
鉱害 0 件
その他 0 件

管内鉾山の災害・鉾害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例①



・令和6年2月の災害

罹災者は、ろ過板Aの表側の洗浄を終えた後、反転させて裏側を洗浄するため、ろ過板Aを床から引き起こし、立てかけてあった他の2枚のろ過板B、Cの横に並ぶ形で立てかけたが、ろ過板Aのハンガー部がチェーンで固定されていなかったろ過板Bのハンガー部の後ろ側に入り込み、ハンガー部同士が重なっていたため、ろ過板Bが同時に前方に押されて罹災者の方に倒れ、罹災した。

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例②



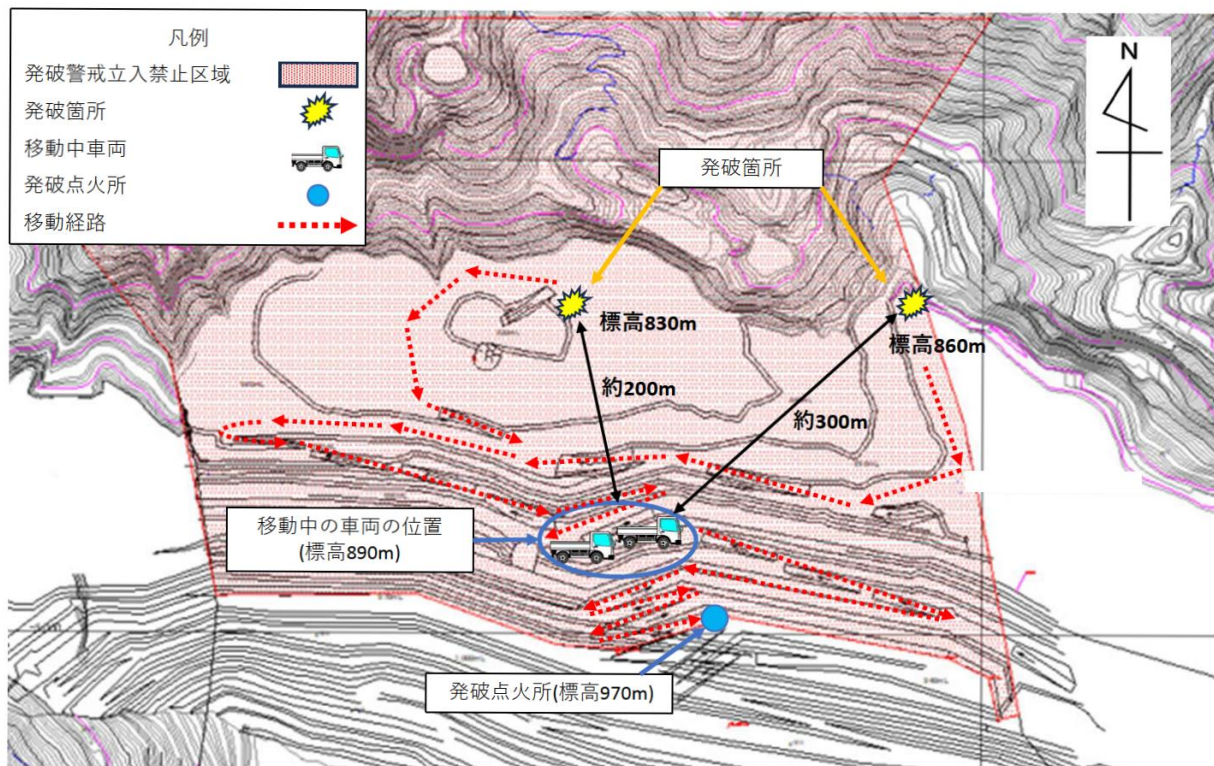
・令和6年3月の災害

露天掘採場において発破を行ったところ、飛石が発生し、ベンチに退避していたパワーショベル2台のキャビンのガラスが割れた。なお、発破時には全ての重機のオペレーターは退避していた。

管内鉾山の災害・鉾害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例③

2024年7月24日 落雷による火薬類の暴発時
発破箇所、発破点火所及び移動中車両の位置



・令和6年7月の災害

発破作業監督者2名は、発破箇所(2箇所)において同時にそれぞれの箇所に電気雷管を発破母線に結線した後、11時35分頃、自動車2台で点火所に向けて移動を開始したが、11時39分頃、雷、暴風雨が発生し、2箇所の電気雷管が起爆した。当該起爆の際、2名は、発破警戒立入禁止区域の範囲外まで到達できていなかったが、人的・物的被害はなかった。

管内鉱山の災害・鉱害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例④



・令和6年8月の災害

パワーショベルのオペレーターは、露天掘採場においてモービルクラッシャーへの岩石の投入を行っていたが、モービルクラッシャーから炎と黒煙が上がっているのを発見した。すぐさま作業を中断して確認したところ、モービルクラッシャーに搭載されているリチウムイオンバッテリー付近から炎と黒煙が上がっているのを確認したため、駆けつけた作業員、消防隊により消火活動を行い、鎮火を確認した。

管内鉾山の災害・鉾害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例⑤

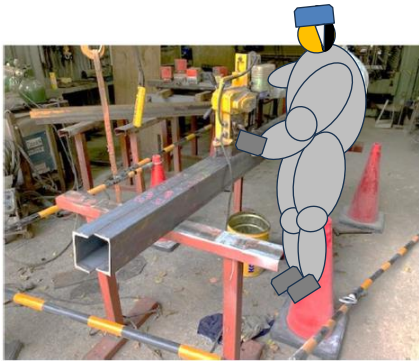


・令和6年9月の災害

発破作業員は発破箇所から北東側の山陰へバックホウを移動させて点火を行い、その後、当該重機の場所へ移動したところ、バックホウのキャビン右側ガラスが破損していることを確認した。ボンネット上に直径約1cmの石が2個落ちていたことから飛石が発生したものと推定される。

管内鉾山の災害・鉾害等発生状況(令和6年)

令和6年 関東管内災害発生事例⑥



作業状況(写真は皮手袋着用で再現)



磁気式ボール盤

・令和6年11月の災害

罹災者は、一人で選鉾倉庫(工作作業場)においてコンベアフレームを交換するためのフレーム材である溝形鋼の製作作業を行っていた。罹災者は、溝形鋼の穴開け作業の最中、穴開け位置を確認するため、右手で操作レバーを上げ、切削面の切削油を拭き取ろうとして回転中のドリル付近に左手を近づけた際、左手に着用していたゴム製保護手袋の薬指付近がドリルに巻き込まれ、罹災した。当該保護手袋は補修用ビニールテープが1cmほど剥がれた状態のまま着用しており、その端が回転中のドリルに巻き込まれてしまったものと推定される。